

第34回日本末梢神経学会 ランチオンセミナー6

現地開催のみとなります

日時：2023年9月9日(土)
12:10～13:10

会場：京都テルサ
第3会場 (3F 大会議室)
京都市南区東九条下殿田町70



更年期世代の女性に多い手疾患と
女性ホルモンに関連する最近の話題

-手根管症候群に対する新たな治療選択肢を含めて-

座長	奈良県立医科大学 脳神経内科 教授	杉江 和馬 先生
演者	和歌山県立医科大学 整形外科学講座 講師	下江 隆司 先生

- 日本整形外科学会 専門医継続資格単位N-8(神経・筋疾患(末梢神経麻痺を含む))、N-10(手関節・手疾患(外傷を含む)):1単位
- 日本手外科学会教育研修単位:1単位

更年期世代の女性に多い手疾患と女性ホルモンに関連する最近の話題

- 手根管症候群に対する新たな治療選択肢を含めて -

Recent Topics related to Hand Common Diseases in Menopausal Women and Female Hormones including New Treatment Options for Carpal Tunnel Syndrome-

和歌山県立医科大学 整形外科学講座 講師 下江 隆司 先生

更年期世代の女性では、手のしびれ・痛み・こわばりといった症状で悩む方は多く、日常生活の質、そして業務に影響を与えている。我々が実施した一般住民ボランティアを対象とした大規模健診では、50歳代女性の9.5%が手の疼痛を有していた。総務省統計局の人口推計を基に算出すると、本邦における50歳代女性のうち85万人程度が手に何らかの疼痛を有していると推察される。

ばね指、ドケルバン病といった狭窄性腱鞘炎では腱鞘内ステロイド注射が有効な症例がある。保存的治療に抵抗する場合には腱鞘切開術が適応される。最も頻度の高い絞扼性末梢神経障害である手根管症候群では手根管内ステロイド注射も症例を選べば有効で、進行例では手根管開放術が適応となる。

新たな試みとして、手根管内で正中神経に対するハイドロリリースを行うことで、特に夜間痛に対して効果がみられる症例を経験する。また、エストロゲンに化学構造式が類似するエクオールを摂取することで夜間痛およびしびれの改善が得られる症例も経験する。これら2つの方法はいまだ十分なエビデンスはないが、近年の基礎研究および臨床研究の取り組みについて紹介する。

更年期世代の女性における手の疼痛の原因の多くを占める変形性関節症 (HOA) では、薬物療法、装具療法が奏功する患者もみられるが、一般的にはその効果は限定的である。手術療法には関節形成術、関節固定術などがあるが、周術期の手の使用制限、また可動域制限、巧緻性低下などの課題があり、患者にとって悩ましい問題である。

骨、滑膜にはエストロゲンレセプターが分布していることが知られており、演者はエクオールの摂取が、更年期世代の女性の手のしびれまたは疼痛を改善すると仮説を立て、これまでに実施した2つの臨床研究を紹介する。特にHOAについては45-60歳の女性で、3ヶ月以上HOAによる疼痛を有する患者を対象として、エクオール摂取が疼痛を改善し、また、生活の質を改善するか否か、有効性を評価した。その結果、エクオールの摂取開始から12週までの短期間に疼痛の改善、疼痛を有する関節数の減少、患者立脚型質問票におけるスコア改善がみられた。